

文部省選定
教育映画祭
最優秀賞文部大臣賞
優秀映画鑑賞会
推薦

第37回日本紹介映画コンクール
銀賞・外務大臣賞受賞
日本映画ペンクラブ推薦
文化庁 優秀映画作品賞

民俗芸能の心

ねふた祭り

— 津軽びとの夏 —



躍動する津軽の夏祭り

——高橋秀雄——

(日本伝統芸能研究所長)

北国の津軽でも、真夏の太陽はギラギラと照り輝き、樹陰にいても汗が頬を伝うことがある。けだるい午後が過ぎ、ようやくにして陽が沈む。一陣の風が頬を撫でる。涼しさが人を甦らせる。そして、その涼風に乗って、かすかに笛や太鼓の音が運ばれてくる。夏祭りのお囃子である。その響きに魅せられて、人の心が再び生き返る。

夏祭りは日本人の心のふるさとである。魂祭りでもある盆の季節を中心として、全国津々浦々でさまざまな夏祭りが繰り広げられる。その夏祭りの代表的なものの一つが津軽の「ねぶた祭り」である。

この祭りは、民俗学的には「ねむり流し」とか「ねぶた流し」と呼ばれる素朴な習俗行事が風流化したものとみられている。山形・福島・埼玉などにも、ナヌカビ(旧暦七月七日)には、ネムの小枝や大豆の葉で眼をこすって川に流すと、眠気がさめたり、早起きができるとして、この素朴な行事が伝えられてきた。この時の唱えことばが、「ねぶたっこ流れろ、豆の葉っことどまれ」であった。ねぶたは眠気であり、豆の葉は「まめに働く」とかけたものであろう。また、ネムの小枝というのも眠気にかかっているのである。

この「ねむり流し」は、穢れを形代につけて流す神送りの行事が、夏の睡魔を追い払う行事として定着し、これに盆行事や神祭りの火の信仰が習合し、祓えによる「生まれ浄まり」の祭りとなっていったのである。

暗夜に極彩色のねぶたが浮かびあがり、笛・太鼓の囃子に合わせて街中を練る。ねぶたの行列は次ぎから次ぎへと通り過ぎる。壮観である。青森のねぶたでは、ハネトの群れが跳ね踊る。

最終日には、ねぶたが海に流される。青森のねぶたでは、打ち上げられる花火の下で、ねぶたの海上運行がある。遠ざかるねぶたの船の上では、ねぶた衆が提灯を振り、囃子が別れを惜しむかのように海上をわたる。感動ということばを実感する瞬間である。

夏が闊けて秋……そして津軽の冬……。



跳入のエネルギーは、ラッセ、ラッセの掛け声とともに飛び、跳ねる。



ねぶた運行には、囃子方の三尺太鼓と笛・鉦が力強い調子で先行する。

映画「ねぶた祭り・津軽びとの夏」を演出して

村山正実
(映画監督)

この映画は三つの章から構成されています。一つはねぶた師によるねぶたの制作を記録した部分、二つ目はねぶた祭りの由来や起源を訪ねる旅、三つ目は六日間にわたる青森ねぶたを通して東北津軽の人々のエネルギーと、津軽の短い夏を描いた章です。

ねぶた師の作るねぶたは、その構想の期間を含めれば制作にほぼ一年かけています。簡単な下絵だけで設計図らしきものもなく大きな立体を作っていくその伝統的な技術は見事なもので、驚きでした。

今日ではねぶたが大型化し高価になるにしたがって、かつてのように川や海に火をつけて流すようなことはなくなりましたが、青森ねぶたの場合は最終日に海上運行という演出で昔のねぶた流しの面影を伝えています。

ねぶたの由来や起源については、よくわかってはいません。

はっきりした資料としては、江戸の天明年間(18世紀末)に津軽藩士の比良野貞彦が著した「奥民図彙」という本にねぶたのもっとも古い図が出ていますが、今日のねぶたの姿とは随分違います。この中には祭りの様子も書かれており、ねぶたを流すときに歌った「ねぶたは流れろ、豆の葉は止どまれ」の唱え唄も紹介されています。

今度の映画で一番参考になったのは、柳田国男の『眠流し考』という一文でした。

ここにはかつて全国各地にあった「眠流し」の習俗が紹介されています。

「眠流し」の行事は、もともと夏の暑い時期に襲ってくる勤労の邪魔になる睡魔(眠気)を水や火によって追い払い、流す年中行事でした。(一種のミソギやハライです。)

ネブタとは眠気を誘う妖怪でした。

柳田の本によるとその呼び名も地方によって「ネム流し」「ネボケ流し」「ネムタ流し」「ネブリ流し」「ネンブリ流し」などいろいろあることが興味深く書かれています。

こうした民間信仰が、農耕儀礼の「虫送り」や七夕祭り、盆の精霊流しなどと習合して今日のねぶた祭りに発展していったと思われます。

東北地方、特に能登半島から日本海側にかけは今も「ねぶた文化圏」があり、青森、弘前のねぶたは、その頂点にあるものだと考えられます。



青森ねぶたの下絵



弘前の扇ねぶたには、ウラ側の見送り絵に美人画が描かれる。



弘前ねぶたの運行には、巨大なじょうばり太鼓が軽快に音頭をとって行く。



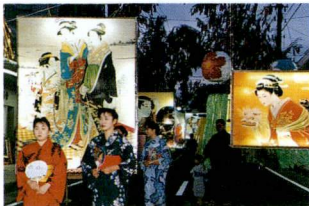
豪快に浮かびあがった青森の巨大なねぶた。



花笠をかぶり、浴衣に鈴を付けた若いハネト連の心はおどる。



肅然と運行する城下町・弘前の扇ねぶた。



秋田県湯沢の七夕絵灯籠は、市内の大通りに七夕飾りとともにつるされる。



わらでつくった小舟は、死者を供養する秋田県・横手の子供達のねむり流し。



能代市のねぶ流しは、8月7日の夜ふけに城郭灯籠の鮫飾りに火がつけられ米代川に流される。

作品名：シリーズ〈民俗芸能の心〉

「ねぶた祭り」

—津軽びとの夏—

(35mm/カラー34分)

企
製
監

画：(財)ポーラ伝統文化振興財団
作：(株)桜映画社
修：高橋秀雄

製作スタッフ

製作・村山和雄
脚本演出・村山正実
撮影・村山和雄
山屋恵司
木村光男
撮影助手・今野聖輝
助監督・広瀬謙一

照明・本橋俊男
録音・堀内戦治
編集・沼崎梅子
選曲・山崎 宏
タイトル・菁映社
現像・ソニーPCL
語り・米倉斉加年

撮影協力

青森市の皆さん
ねぶた師・権元鴻生
千葉作龍
ねぶたの唄・沢田長吉郎
弘前市、五所川原市、黒石市の皆さん
青森県立郷土館
弘前市立博物館
棟方板画美術館
横手市、湯沢市の皆さん
鹿角市、能代市の皆さん

Photo by T.KUWANO

Pola Foundation for the Promotion of Traditional Japanese Culture

財団法人 ポーラ伝統文化振興財団

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-2-10 ポーラ第2五反田ビル2階
TEL.03-3494-7653 FAX.03-3494-7597

FCM11@1,000 08.12